

術後鎮痛薬の適正使用に寄与した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、術後鎮痛薬について、体重に応じた投与量の変更を提案し、適正な薬物療法の提供に寄与できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶悪性腫瘍に対して手術目的で入院された患者
体重：42.6kg

【術後の鎮痛薬】

アセリオ静注液 1000mg バッグ 1,000mg
末梢点滴注射 15分で投与
疼痛時 6時間毎投与可



Eさん



医師

Eさんに術後鎮痛薬のアセリオが、1回1,000mgで処方されておりますが、Eさんの体重が50kgを下回っております。50kg未満の成人に鎮痛目的で使用する場合、1回15mg/kgが上限となりますので、Eさんの場合1回640mgが上限となります。

ありがとうございます。アセリオは1回640mgで投与するように、指示を出しておきます。



薬剤師

アセリオは1回640mgで投与するように指示が出され、計4回投与された。疼痛コントロールに大きな問題なく経過し、退院となった。体重に応じた投与量の変更を提案し、適正な薬物療法の提供に寄与できた。

DIニュース2023年6月1号

アセトアミノフェン錠 カロナール細粒 適正使用のお願い

1 成人は用途によって投与量が異なります

	用量（適量準拠可）	投与間隔	最大投与量（1日総量）
成人における 鎮痛	1回300mg～ 1000mg	4～6時間以上	4000mg/日を上限
成人における 急性上気道炎の 解熱・鎮痛	頓用 1回300mg～500mg	原則1日2回まで ※処方文書では 無量の処方なし	1500mg/日を上限

2 小児科領域は体重によって投与量が異なります

	用量（適量準拠可）	投与間隔	最大投与量（1日総量）
小児科領域における 解熱・鎮痛	1回10～15mg/kg ※1回500mgを上限	4～6時間以上	60mg/kg/日を上限 ※1500mg/日を上限 ※成人の用量を越えない

※厳密な体重測定、新生児及び3か月未満の乳児を対象とした有効性及び安全性を評価した臨床試験は実施していない（処方文書より抜粋）

3 その他の使用上の注意点

重篤な肝障害が発現するおそれがあるので、長期投与する場合は定期的に肝機能検査を行って下さい。
アセトアミノフェンを含む他の薬剤との併用は避けて下さい。（トアラセット、PL配合顆粒、一般用の総合感冒剤など）

DIニュース2023年6月1号

アセリオ静注液1000mgバッグ 適正使用のお願い

1 成人は用途によって投与量が異なります

	用量	投与時間	投与間隔	最大投与量（1日総量）
成人における 疼痛	1回300mg～1000mg ※体重50kg未満の場合 1回15mg/kgを上限	15分	4～6時間以上	4000mg/日を上限 ※体重50kg未満の場合 60mg/kg/日を上限
成人における 発熱	1回300mg～500mg	15分	4～6時間以上 ※1日2回まで	1500mg/日を上限

2 乳幼児、小児は年齢によって投与量が異なります

	疼痛及び発熱時の 用量	投与時間	投与間隔	最大投与量（1日総量）
2歳未満の幼児 及び乳児	1回7.5mg/kg ※1回500mgを上限	15分	4～6時間以上	30mg/kg/日を上限 ※1500mg/日を上限
2歳以上の幼児 及び小児	1回10～15mg/kg ※1回500mgを上限	15分	4～6時間以上	60mg/kg/日を上限 ※1500mg/日を上限

※厳密な体重測定、新生児及び3か月未満の乳児を対象とした有効性及び安全性を評価した臨床試験は実施していない（処方文書より抜粋）

3 その他の使用上の注意点

アセリオ静注液1000mgバッグの投与は、経口製剤及び坐剤の投与が困難で、静注剤による緊急の治療が必要である場合に専ら、経口製剤または坐剤の投与が困難な場合は速やかに経口製剤または坐剤の投与への切り替えを依頼して下さい。
重篤な肝障害が発現するおそれがあるので、長期投与する場合は定期的に肝機能検査を行って下さい。
アセトアミノフェンを含む他の薬剤との併用は避けて下さい。（トアラセット、PL配合顆粒、一般用の総合感冒剤など）

アセトアミノフェン製剤の
適正使用について
ご協力をお願い致します。

（参考）

DIニュース2023年6月1号
アセトアミノフェン製剤
適正使用のお願い

よろしくお願ひします

